

# 東京でマレーシア・ボルネオ島の熱帯林と人々の関わりを学ぶ

- プログラム概要** : 東京でマレーシア・ボルネオ島の熱帯林と人々の関わりを学ぶ  
**実習先** : 板橋区立熱帯環境植物館の訪問・オンライン実習  
**実習先情報** : 熱帯環境植物館は、世界三大熱帯雨林の中から日本と関係の深い東南アジアの熱帯雨林を再現している博物館型植物館です(板橋区立熱帯環境植物館)  
**参加人数** : 26名  
**学部学科** : 人間科学科、社会福祉学科、経済学科、経営学科、会計ガバナンス学科、幼児教育学科、日本文学文化学科、グローバルコミュニケーション学科、看護学科、建築デザイン学科、数理工学科、環境システム学科  
**実習期間** : 令和3年7月27日～8月10日  
**本学担当教員** : 伊尾木 慶子(環境システム学科)

## 〇はじめに

世界の熱帯林で森林の減少や劣化が進むなか、ボルネオ島ではいま何が起きているのでしょうか。ボルネオ島の豊かな熱帯林はそこに暮らす人々にとって大変重要な存在ですが、私たち日本人にも深く関係があります。本FSでは熱帯植物館の訪問や専門家の先生を招いた講義とワークショップを通じて、ボルネオ島の熱帯林と人々の関わりについて学びました。

## 〇実習内容

### 1. 板橋区立熱帯環境植物館の訪問

植物館を個別訪問し実際に熱帯林に生息する動植物の見学を行った。



### 2. 講義とワークショップ(1)

ボルネオ島の自然や野生生物の保全について現地の専門家、WWFマレーシアのJason先生によるオンライン講義(英語)を通じて学んだ。ワークショップでは、日本も多く輸入している南洋材と持続可能な森林管理についてグループディスカッションを行った。



輸出される木材(Jason先生提供)

### 3. 講義とワークショップ(2)

ボルネオ島の地域研究の専門家、藤原先生と岩崎先生を招き、マレーシアサバ州およびインドネシアカリマンタンでの先住民の人々の暮らしと熱帯林の関わりについて学んだ。ワークショップでは森林減少の一因でもあるとされることのある焼畑農業を今後残すべきかという内容のディスカッションを行った。



焼畑の様子(岩崎先生提供)

### 4. ポスター発表

最後にまとめとして熱帯の自然や人々の暮らしについて自分のテーマを選び発表を行った。



## 〇まとめと担当教員コメント

グループディスカッションを通じてより深く熱帯林と人々の関係について考えてもらえたようです。今後このような課題について事実やデータをもとにさまざまな視点から考えていってほしいと思います。

## 〇専門家の先生方からのコメント

"Glad that my objective to trigger their curiosity of Borneo, wildlife and timber and see the link with Japan has worked out."

"真面目な学生さんたちばかりで楽しかったです。学生さんにボルネオに興味を持ってもらえるきっかけになれば嬉しいです。"

## 参加者のコメント(一部)

"日本で開催されている東京オリンピックと森林問題がこんなにも大きく関わっていたのは驚きでした。"

"初めて英語のスライドで英語の説明を聞くという新鮮な体験ができてよかった。"

"環境問題や先住民の伝統の継承、人口増加などの多面的な課題であることを私たちが認識し、現在発生している課題についてどのように向き合っていくべきなのかを考え続けなければいけないと感じた。"